川上　高司　ブログ　アーカイヴ

2016年

3月7日

ネオコンの嘆き

3 月 1 日のスーパーチューズデイでは、トランプの快進撃はますます加速した。１１の州で予備投票が行われ、７つの州でトランプが勝利した。テッド・クルーズはかろうじてテキサス州を制覇したが､ルビーオにいたっては２～３番手に甘んじている。ＣＮＮの出口調査では、大統領として相応しいのはルビーオだと多くの投票者が感じている。クルーズは価値観が同じだという共感を得ている。だが、その感情が投票には結びついていない。実際には多くの国民は既存のシステムを破壊することをトランプに望んでいる。その期待がトランプを勝利へと導いているのだ。

このままいくとトランプが共和党の候補になるかもしれない。そんな悪夢にさいなまれているのが共和党の中でのウルトラ保守のネオコンたちである。かつてブッシュ政権時代にイラク戦争を推進した彼らは、トランプが共和党の掲げる理念とは相容れず､「アメリカの外交政策が破壊される」と眠れぬ夜を送っている。

トランプは、イラク戦争は世紀の大失敗と批判しパレスチナ問題はどちらにも汲みせず、プーチン大統領とはうまが合うといい、アメリカが世界の警察官であるかどうかについては「何故アメリカばかりが請け負わなければいけない」と、共和党の政策方針には真っ向から対立する。彼の放言を聞いていると民主党のクリントンが保守派に思えるほどである。

ネオコンの代表格であるエリオット・コーヘンやエリオット・エブラハム、ビル・クリストルも「トランプよりヒラリーのほうがまだまし」と、究極の選択も視野に入れ始めている。あるいは「第３の候補」の擁立もあり得る。すでに前回の候補となったミット・ロムニーの名前が取り沙汰されている。

ワシントン・エスタブリッシュメントへの挑戦者となったトランプと、その牙城を守ろうとするネオコンの闘いが始まった。

3月19日

シリア会議の行方

ロシアのプーチン大統領は、ロシア軍をシリアから一部撤退させると発表し国際社会を困惑させた。ロシアによるシリアへの軍事介入は唐突に始まりそして唐突に手を引くというプーチン外交に国際社会は文字通り振り回されており、ロシアがパワーゲームの主役であることを改めて思い知らされた。

撤退は 3 月 15 日から開始する予定だった。14 日にはプーチン大統領はアサド大統領と電話で話し込んだという。そこでは、アサド大統領に対し平和会議主導の和平プロセスを受け入れるように説得したという。またオバマ大統領とも電話で会談した

という。ただイランやヒズボラは知らされておらず、この唐突な撤退のニュースに驚きを隠せない。

このロシアの撤退で最も影響を受けるのはアサド自身である。アサドはロシアの強力な後ろ盾を失うことになり、政治プロセスにおいて譲歩をしていかなくてはならない立場に追い詰められる。そのため和平プロセスは進展する可能性は高い。もっとも、ロシアの軍事基地はそのまま残るのでいつでも戻ってくることもできる。

この唐突な撤退には当然ながらアメリカや湾岸諸国との取引があったことは間違いない。ロシアは原油価格の下落で財政が逼迫している。外国へ派兵するコストは高く今のロシアでは派兵を維持できないので、「名誉ある撤退」を演出した可能性もある。プーチンが最も恐れていたのはアフガニスタン侵攻の二の舞になることであり、撤退時期を慎重に見計らっていたが、今が撤退の好機と判断したのかもしれない。

アメリカにも譲れない事情がある。ケリー長官の任期終了が迫りアメリカ大統領選挙が盛り上がる中、次期大統領がだれになるかでシリア情勢が大きく左右されることは間違いない。 共和党の超保守派のテッド・クルーズが大統領となれば、かつてのブッシュ政権のようにネオコンが復活し中東に関与を深める可能性は高い。そうなればシリアの安定は遠のき、軍事介入もあり得る。

3 月 24 日で現在進行しているシリア和平会議はいったん終了する。今後はシリアの政治的プロセスの構築に着手することになる。限られた時間でどこまでできるのか。米ロという 2 大大国の外交手腕が問われる。